

研究シーズ

岩手医科大学

シーズ名	末梢神経障害の早期予後判定と治療方法	分類：9
所属 / 職 / 氏名	医学部 麻酔学講座 / 教授 / 鈴木 健二	
キーワード	末梢神経障害、顔面神経麻痺、神経ブロック療法、高圧酸素療法 ステロイド療法	

どんな技術？

一言アピール

神経障害の重症度を早期に正確に判定し、重症度に応じた治療法を提供する。

末梢性顔面神経麻痺に代表される末梢神経障害では、障害が生じてから Waller 変性が完成する 10～14 日以内では、正確な予後判定が困難とされている。このため治療法の選択も難しく、重症例に対する治療が遅れたり、軽症例に対して過剰な治療が施されたりする。

近年、電気生理学的検査や MRI 画像などにより、早期予後判定が試みられているが、いずれも決定的なものではない。また治療に関しても神経ブロック療法、薬物療法、高圧酸素療法、外科的療法などが行われているが、施設により様々であるため治療成績にもばらつきを認めている。

当施設では末梢神経障害の重症例に対し、大量ステロイド療法を行い良好な成績を得ているが、他の治療法に関しては明らかな有効性は認めていない。

何に使えるの？

早期予後判定に役立つ指標を見出すと共に、他の治療の併用の是非について明らかにすることにより治療成績を向上させる。

関連特許

関連資料等